

パネルディスカッション②

「子供の生活習慣づくりの多様な取組」

文部科学省では、平成 18 年度より民間等との連携による「早寝早起き朝ごはん」国民運動を推進し、幼児・小学生を中心に子供の生活習慣の改善に効果があった。一方で、10代のスマートフォンの利用率も8割を超えるなど、生活圏の拡大や行動の多様化等により、生活リズムが乱れやすい環境にあり、生活習慣の乱れによる心身の不調等により、様々な問題行動に発展する可能性も指摘されている。

パネルディスカッション②では、子供の生活習慣が心身へ与える影響等に関する議論や、現場での取組事例等を踏まえて、子供の生活習慣づくりについて実践のための課題や取組の進め方を考える。

○コーディネーター

鈴木 みゆき 氏 独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長

○パネリスト

中谷 通恵 氏 北海道白老町家庭教育支援チーム「ぴんぼーん」
コーディネーター

木田 哲生 氏 大阪府堺市教育委員会学校教育部生徒指導課指導主事

内田 公生 氏 徳島県三好市立辻小学校校長

コーディネーター

独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長

鈴木 みゆき 氏

<プロフィール>

和洋女子大学人文学群こども発達学類教授を経て、2017年4月に独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長に就任。専門は保育学・睡眠学。過去には文科省中央教育審議会幼児教育部会委員、厚労省社会保障審議会保育専門委員会委員、内閣府教育再生実行会議専門調査会委員などを歴任した子ども教育のスペシャリスト。現在、国立教育政策研究所評議員も務める。著書に「早起きからはじめよう」など多数。

パネリスト

北海道白老町家庭教育支援チーム「ぴんぽーん」コーディネーター
中谷 通恵 氏

<プロフィール>

教員として6年間勤務。退職後、白老町で育児サークル「トコトコ」を発足、子育て通信「心の基地になりたくて」を発行。男女共同参画による子育てと子育て支援の広がりをめざし、平成16年にNPO法人お助けネットを設立し、代表を務める。平成21年には、訪問型の相談活動を行う家庭教育支援チーム「ぴんぽーん」を発足、子育てに悩む保護者に寄り添い、不安を解消への手助けに力を注いでいる。北海道内各地での講演や執筆活動に励む傍ら、北海道の教育関連の公職などにも就く。

大阪府堺市教育委員会学校教育部生徒指導課指導主事
木田 哲生 氏

<プロフィール>

大学卒業後、堺市公立中学校保健体育科教諭として勤務。24歳の教職3年目に「日本一若い生徒指導主事」となる。平成27年より大阪教育大学教職大学院へ内地留学しながら、勤務校で睡眠教育（みんいく）を実践研究する。平成27年度日本教育公務員弘済会大阪支部主催教育実践研究論文大会で入選、平成28年度読売教育賞最優秀賞受賞、平成28年度国際学会「Higher Education Forum」Best Paper Award 2位を受賞。現在は堺市教育委員会学校教育部生徒指導課の指導主事として勤務。

徳島県三好市立辻小学校校長
内田 公生 氏

<プロフィール>

大学卒業後、徳島県内の公立小学校や中学校、徳島県教育委員会事務局での勤務を経て、平成29年度より三好市立辻小学校校長に着任。文部科学省の「つながる食育推進事業」の指定校として、平成29年度よりつながる食育の推進を核とした「早寝早起き朝ごはん」運動に取り組んでいる。年間を通して、様々な親子学習プログラムや講演会、交流会等を計画し、学校・家庭・地域が連携・協働して、食育推進の観点から「早寝早起き朝ごはん」の習慣化を図っている。